

右ノ通入意ニテ船ハ

三月

元文又申年七月

一町中島ノ属其人別ニ波取政前ノ色帳面取  
元中ノ島子町ノ名ニ支配限取屋共名孫共  
廿日ヨリ同廿九日迄ニ時分八時迄ノ内柳原  
松下町中村跡方ノ色帳面取波取取意可  
申渡ル旨町中島共申上ノ初船ハ

七月

唐物并唐船取之部

寛文八年二月

一 縮緬木綿織物類

一 赤綿よりきこ

一 麻布漆物類

一 蠟燭燭類

一 漆類

一 油酒是之類中かえり

右、分高年より英國より来る物、意度可なり  
中、付は是又長崎より人川野村右邊より  
此、元中右、書付と以て作渡り也

先

一 茶種、外柱物類

一 生類

一 小間物道具

一 金糸

- 一 茶種之不成唐物ノ類
- 一 珊瑚樹
- 一 たんろく
- 一 丹云
- 一 蘭園陀物為る唐物ノ類
- 一 加尾波
- 一 ひんぐり
- 一 衣類小形ノ物法孫成物ノ類
- 一 右ノ類多量ノ物日本ノ名ヲ相渡有カク
- 一 云用ノ使ハ 作出
- 一 陸紗西草程ノ波
- 一 右ノ近ハ名若ク事ノ外モ織ノ物有リ

渡ル

寛文八年六月

- 一 英國高貴ノ人後長今迄ノ銀子多ク是ノ物有
- 一 高年ノり合子有る所蘭園唐物ノ類也
- 一 左候町中ノお觸ノ中ノ也

同十二年六月

光

- 一 諸國高貴ノ人長崎島名ノ後長今迄ノ銀子多ク是ノ物有
- 一 向後モ以前モ御定七月又日切小ノ為長崎

若此之れをて進系は案をて除入札事

附取たてて一斗中を受り

一 貨物賣渡に依毎案七月有て商人

長崎若志者先次方候に於て以帳面

領金一斗に相渡に但貨物買を隨其

分際一斗に相渡に然るに老合吳國人

前代物相換を以て渡し事

一 口後銀に依唐銀を毎年往來通に可致し

阿蘭陀に商物買取に輩し向後唐銀に依

准し口後銀に依し事

一 阿蘭陀貨物代金に依て年々令を為す銀松

公に取替しに隨て阿蘭陀に渡すに取替銀

下を以て乃自今以後令を為す銀六拾

八匁に取替しに相渡し事

附日本より賣渡に古銀細小等為前給

乃具に海に燒品に賣渡商人亦其取替銀

に依て取替しに相斗し事

一 唐銀貨物代銀に依て年々令を為す取替銀

六拾八匁に隨て唐人に相渡す取替銀に依て

其取替銀に依て向後銀に依て賣物代了

相渡事

附英唐人金子屋常於一十七日付之書事  
 一 諸國商人英國相買丸代銀之書令銀由野  
 吳玉人形之付之書支幣利銀之書を以て  
 英國代相買丸代銀之書を以て  
 あといふ書不成立向後之書於大坂長崎其  
 時之由野野可為相場取書  
 一 何事亦之次之書を以てたしとをたし法を  
 肯書之書長崎之書拾里に方進致之  
 他國之書ハ長崎之商賣之令停止但之書ハ

下江行嚴科事

以上

右一通信今年於長崎下江付之書甚遠致致  
 大坂  
 坂所中下江相觸之書也

三月廿三日

永井伊賀守殿

石丸石見守殿

夫坂守政守殿

水野伊豫守殿

渡辺大隅守及  
清田出雲守殿

天和三年二月

光

一 陸奥御領其外毛織類一令系一衣取不織物  
一 生取一茶種外種物一茶種成康一茶種并種物  
右にお入侍し船小陸奥向後日本に廻候為  
此傳しし旨に相書し奉り也

二月

元禄三年六月

一 長崎奉行より長崎

是奉相對高賣身入札仕落札方相候故  
候へども上々諸迄高賣小成り候へども外不置候  
英國前物も減目申し令限も多候は候兼  
此 作出品物と相違は違奉り高賣相考  
本斗を以相控へて申す札合書は是押入  
せり之は後候別禁下申付候為相背候事候  
此仕重下申付候右候下地高賣高候事  
此方より中渡り候事候事候事

月

一 正徳四年年六月廿日在年長崎往來之唐船私  
高曼相長一試其往來之宗筋かを 津國法  
相背以後九別に國中必第海迄一順之も 船書并  
名前 一尚帳一は仕意懐之記一

享保三戌年六月

光

一 唐船持渡一法迄扱前仕賣買之今以名おの  
名在 一尚帳一は仕意懐之記一

相求於所を 食後之と之初物下り一を扱買  
仕名之 一尚帳一は仕意懐之記一  
以之其料をゆ一は後後之と一今とあることなき  
新船より中付の若存あり之中かえり一於今  
而初所を急度之の罪科事

一 海上之唐船見をさし 船行遠小のとも 唐船中  
を海之不同を臨つた色元唐船かをさしを急  
同根小船かを以て一は之を食後之の罪科事  
國一重之小なるく西國必性其の每持者た一ハ  
急度之の罪科事

右ノ既登平ノ液主ノ至相結ヲ以テ而  
順祀支死下ノ至相改カシク結ニ至シテ可  
中付カ者遠程ノ至之付ハ何道仕至  
付出上

六月

享保二戊年十月

云々大坂町ノ以テ而之唐物ノ付高者右捕有  
同敷才出ル中ノ敬儀ノ至カ者皆其面ノ至  
改改カシク之依ハ何ノ至之至六月書付  
相結カシク之至又中ノ相ノ以テ其先以テ其

大坂ノ相結分斗ニ依ル年息ノ事ニ以テ  
ぬけ高者餘多ク其ノ管西國中ニ筋津浦  
令人多ク集ルル年日ニ依リテ改改カシク  
中ノもぬけ高者携フルハ右捕大坂町ノ長崎  
為而一月ニ至カ者相結カシク右捕  
出ルノ不及也

十月

- 松平藤三郎 牧野仙舟
- 松平長門守 松平萬智
- 松平出羽守 松平集人
- 松平源兵衛 松平丹次
- 松平長四郎 松平重三郎
- 松平重三郎 松平武邦



徳島加賀寺 陽波粉澤寺 鴻修社寺 公井大徳寺  
 松平之殿所 松浦北前寺 大村伊勢寺 太清之江寺  
 松平氏初病 毛利源次寺 松平家蔵寺 法隆寺  
 阿波伊勢寺 五馬之普門 三光元澤寺 三光寺  
 細川敏仲寺 細川伊豆寺 相良全留寺 中川因信寺  
 稲葉宗禱寺 本下在馬佐 毛利因隆寺 公富伊勢寺  
 松平市心 松平對馬寺 松平北前寺 里田甲斐寺  
 黒田信勝寺 松平大炊次 本下北後寺 池田因直寺  
 安徳前寺 池田長之助 石川宗正所 板倉徳俊寺  
 小室宗右衛門 小室宗道寺 園家大膳 林泉初大補

松平左衛門 服坂源次寺 森和泉寺 森安藤寺  
 一柳對馬寺 本多登丸 建部丹波寺 小室宗正所  
 松平重留 松平周防寺 海井源俊寺 松平公依寺  
 松平源次寺 伊達重江寺 松平左京 松平源俊寺  
 松平源俊寺 松平宗女心 京極義隆寺 加茂如羽寺  
 伊達和曾 加茂大藏寺 一柳因幡寺 京極義隆寺

唐新海上見是之同と隔之は色は并唐新  
 同新船如星若く仕託尚友は 作出は実在  
 伊藤圓之助者述も一致承知り計以候

唐松源流之長嵩祀者中付並若右之末初有  
松源之去相改之より其後は之を捕りて  
但凡之系色は松源より入申前初細  
相改之より通つて之を以て

十月

松平源盛が松平有馬督 松平出羽 松平丹後  
松平長政痛 細川越中 松平肥前 小笠原左衛門  
奥平左衛門 大井大炊 松平之殿 松平周防  
飛井隠後 大村伊勢守 又徳也

享保己亥年六月

光

先代源盛の外祀於御用先西園中丞節一面  
唐松源高之者於願分吟味一松子家系  
相拓お初は之を以て或は内之者其に説文に付或は  
抄言相血判致させ又ハ相觸は書付を度  
讀聞世に所より之に由書付は是なり  
事ハ無量一後改一名因之る書付は松平  
竟吟味一本意は不相立其に右之書  
初改自今望之用、下は致は向也書付

相違ひに接高之者大に於舟行而食飯をとり  
之願を以て中船に於て巨捕を以て相違ひに  
手前を至政に於て者云く以て味を初めを不  
以故に相違ひに向後ハ一人感其巨捕をとり  
一節に於て

六月

右に記すは五月西園中を節一面に相觸  
但名節に内去年と違ひに後種天皇に除名  
松平左京の左京夏石川宗十所を原に地田  
君右衛門丹波守と外留候云

享保十一年九月

- 一 近年唐船漂流し沙汰云く以て舟に打拂依流以  
前中達道別を言せり一に相觸
- 一 唐船漂流し別接買物一船相見し中は  
打拂依流中達道一に舟に併打拂し  
出帆名仕りし船具亦も打換し出帆船成候  
船斗も右左板を以て二三日も板子具合船を  
流船具亦も換し右帆船成候し長考送り  
以船に仕り
- 一 舟拂し別を帆仕りし先達も中達に舟打拂候

見合元如く遊熱け長く遊熱中へ候し  
云用つに致し

以上

九月

松平出羽守 松平大隅守 松平丹後守 松平長門守  
細川越中守 松平筑前守 小笠原左衛門守 井上大膳  
松平左衛門 松平肥前守 松平周防守 龜井隆俊守  
大村伊智守 毛利源次守 大崎大和守

享保十六亥年四月

成三拾三番度新

附 増 信

右唐新去冬日本人抜買を企遊忌新申し  
宗移山又唐人元紀公九圍一早建番新  
御山守右捕山守人元抜買一後中合山又  
山守と相守山守を為山守長員限百枚山守  
但右銀子山守本作右馬方山守相渡山守可  
致し

右通長徳守山守中渡山守一山守山守  
右山守山守山守山守

享保十八年四月

正勘定手形

長湊表唐河茶院高賣を本年名目取限不  
減少に付去り亥年運上納之百萬相納去り  
二相納金三百萬の外八千一付地下配分候  
去り亥年六定式、分相去り去り年一候  
米之運地下糶候に付定式一六分通り糶  
地下人元玉及糶候に付糶成候相納一  
依一此度及唐河茶院高賣之法に改地下  
人元相續仕候に付先年一付運上金五百萬

當分を百萬とす初減之百萬を運上納可仕  
地下配分候に付金百萬を糶に付下  
亥子亥年一運上金納不足候に付右  
出限一付に用捨候に付糸通り納金  
右に通計候に付 仰出の旨宜九斗一  
付候

四月

右書付細井因幡守に於て候に付

元文元辰年六月

壬午長湊河高賣滞り候に付唐河茶院

日教多被運滿り一後為り方唐船教四被  
之減二拾五艘之相極互商之目教多くたぐ帆  
名滞極中分り我の係一運上令決定し負教  
上納り不及り出銀之月先地下被配分相殘  
分を上納り極り仕は唐人仕とも右船教留り  
獲り後一常事先右一運商分一候に方  
右教主候也

六月

右に候定有候事

元文四年六月

當六月下旬より奥羽道房及船海上、系船  
相見申し中陸揚り候事一並運多し一有可  
中渡並に捕り別途去り分令被一二人  
尚並に候りも名表り候事其候也  
右に候渡方より一係代官等毎所候り申中渡方  
願分、海邊より一申り候事其候也

六月

同年八月

浦賀入陣し船、英國船、候見を其日

相見の儀先年言相達は、色來月、色不及  
之儀、併以來、海上来る、吳國、船、亦、怪、發  
亦見、是、以、中、亦、以、格、下、中、外、亦、也

八月

右浦、如、是、行、遣、一

寛保二庚申十月

此勘定、是、以、  
長崎、是、以、

唐阿院、船、右、渡、船、調、之、儀、以、前、右、出、方、法、以、也

其、後、既、之、出、方、藏、以、付、る、在、候、も、言、在、相、成、以、為  
享、保、年、中、之、儀、以、至、凡、在、候、一、倍、解、も、有、候、  
依、之、唐、阿、院、賞、九、の、調、一、倍、銀、大、分、成、其、以  
就、是、右、高、貴、也、一、候、目、下、一、産、物、余、分、を、以  
交易、之、被、苦、之、也、又、尚、付、品、是、之、調、を、唐、阿、院、に  
在、候、安、少、買、取、ら、せ、之、時、分、長、崎、者、限、内、に、為、候、以、  
中、候、不、相、當、之、度、は、唐、物、不、渡、來、也、目、下、一、  
用、度、若、度、支、以、中、候、も、以、之、是、派、以、渡、唐、物、不  
渡、以、之、目、下、一、産、物、品、是、之、物、公、各、一、業、種、外、一、  
其、以、先、七、八、年、程、内、唐、船、數、拾、艘、と、拾、艘

其職師宗院高貴、自教を牛分り職に就け  
 たり、其分り述唐師宗院、後以綱に百万行社  
 一内武百万行、職の以統名唐師教を職師宗院  
 高貴を牛分り職の以統名唐師教を職師宗院  
 一右通和教、職の以統名唐師教を職師宗院  
 又万、一運上全名、其後、其分り、其分り、其分り  
 其後、其分り、其分り、其分り、其分り、其分り、其分り

藥種之部